

巻頭言

ニューガラスフォーラム 30周年に寄せて



経済産業省 大臣官房審議官（製造産業局担当）

福島 洋

Hiroshi Fukushima

*Deputy Director-General, Manufacturing Industries Bureau,
Ministry of Economy, Trade and Industry*

一般社団法人ニューガラスフォーラムが創立30周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。これも吉川会長はじめ、歴代役員、関係者皆様の並々ならぬご努力の賜物と敬意を表する次第でございます。

一般社団法人ニューガラスフォーラムは、ニューガラスに関する情報交換の場として設立され、ニューガラスを取り巻く技術課題の調査研究を中心として、産業に密着した課題に積極的に取り組み、ニューガラス関連産業発展のために活動されてこられました。

この30年を振り返りますと、設立当時、産業界では、石油危機以降の省資源・省エネルギーの重要性が高まり、素材産業に対して、高機能、高性能材料が求められる、いわゆる新素材ブームがあり、ガラス産業においても既存の汎用ガラス製品からハイテク材料としてのガラス材料に対する期待が高まっていました。それまでに、光ファイバー、フォトクロミックガラスなど、ガラスの技術革新は着実に進展していましたが、ニューガラスというとらえ方はされておらず、当時、ガラス産業の中にガラスを新しい観点で見直そうとする動きが現れ、昭和60年7月に産学官の交流の場として、ニューガラスフォーラムが設立されることとなりました。

ニューガラスフォーラム設立後、様々な技術革新によって「ガラス」という素材の価値および有用性は飛躍的に高まり、住宅・建築物、自動車、各種エレクトロニクス製品や光学機器、医療機器に至るまで、高機能化された優れたガラス製品が供給されることで、日本のみならず世界の人々の暮らしは、より快適で豊かなものになりました。

この間、ニューガラスフォーラムは、ニューガラスの産業・技術に関する調査研究やニューガラス大学院における人材育成、ガラス材料の国際的なデータベースである INTER-

GLADの構築・運営といった知的基盤整備などに取り組み、「ナノガラス技術」、「三元光デバイス高効率製造技術」及び「革新的ガラス溶融プロセス技術開発」といった政府が支援する研究開発プロジェクトにおいて中心的な役割を担い、我が国ガラス産業の技術力の向上において大きな貢献を果たしてこられました。

さて、我が国の板ガラス産業の現況に目を向けてみますと、直近では消費税引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れたこともあり、需要は緩やかに持ち直しつつありますが、人口減少が現実の問題となりうるこれからの時代、中長期的には新設住宅や国内自動車販売等の市場見通しは厳しいものであり、需要の減少が懸念されております。

こうした業界全体が直面する大きな問題に対しては、まさに業界が一丸となって取り組んでいくことが重要であり、一般社団法人ニューガラスフォーラムにおかれましては、大量のエネルギーを消費するガラス溶融プロセスの省エネ化、サプライチェーン等のIoT導入による生産効率化、省エネ性能の高い高機能ガラスの開発といった技術革新というアプローチでこの問題に対して積極的な貢献をされますことを期待しています。

また、テレビやモバイル製品等、今後とも技術革新が求められるデジタル家電分野に高品質材料を提供していますが、同分野の国際競争力を確固たるものにするため、産業界に密着したシンクタンクとして、また、研究開発プロジェクトの実施機関としての役割を十分に発揮されまして、我が国ガラス産業をリードして頂くことを期待しています。結びになりましたが、今後の一般社団法人ニューガラスフォーラムの飛躍、並びに会員各社、関係者の皆様の益々のご発展、ご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。